



新年度ごあいさつ



病院事業管理者 丹野 弘晃
たんの ひろあき

病院医療崩壊

新年度を迎え、ご挨拶を申し上げます。年度初めから、らしくない暗い表題となってしまいました。ここ20年間で、「病院医療崩壊」という言葉が注目され、世間で話題になったことが3回あるそうです。

1回目は、事実上の冤罪事件と言われた福島県立大野病院事件の頃です。詳細は述べませんが、地域医療をマンパワーが少ない状況で守っていた勤務医が、刑事事件の容疑者として逮捕されてしまいました。その場で全力を尽くした結果が不幸な転帰となってしまったものの、業務上過失致死罪と異状死の届出義務違反の容疑で逮捕までされるのか、と衝撃が走ったことを覚えています。結局無罪とはなりましたが、医学会を巻き込んだ議論が沸き上がり、地域における産科医療を崩壊させかねない強い懸念が拡がりました。結果として、「立ち去り型サボタージュ」という言葉で表現されたように、リスクの高い地域中核病院の勤務医が辞めていくという現象に繋がっていきました。幸いなことに当地域では、そのような事実はなかったように思います。

2回目は、記憶に新しい新型コロナウイルス感染症のパンデミックです。感謝や尊厳の念から生まれたエッセンシャルワーカーという呼称ですが、その代表格が医療従事者です。反面、病原体の近くで働いているというだけで、差別の対象になった残念な事実もありました。当院でも経験しましたが、院内クラスター発生による職員への罹患とそれによる診療体制の縮小により、病院医療を維持できなくなるギリギリの状況に追い込まれました。危機的状況でしたが、全職員の医療従事者としての矜持と頑張り、そして結果として手厚かった診療報酬の下支え等で何とか乗り切ったと思います。

3回目は、まさに今起こっている病院経営赤字転落という非常事態です。私自身は、今回が最も病院医療崩壊に繋がりがかねないと本気で危惧しています。その要因は諸々ありますが、各病院団体が共同声明で発出したように、物価・賃金の上昇に即応できない診療報酬制度そのものの構造的問題が大きいとは、私も思います。しかし、それを嘆いていても何も変わりませんし、日々の診療は目の前にあるわけです。

当院は上十三地域の中核病院であり、ある日突然なくなることは許されません。全職員が一丸となって、地域医療を守り抜く決意ですので、皆さんの絶大なるサポートを何とぞよろしくお願いいたします。

新年度ごあいさつ



院長 すぎ 杉 た 田 じゅん 純 いち 一

皆さま、こんにちは。十和田市立中央病院院長の杉田純一です。新年度を迎え、一言ご挨拶申し上げます。

昨年度は、当院を支えてくださる皆さまのご理解とご協力を頂きましたこと、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

現在、多くの公立病院が厳しい経営状況に直面しています。当院も例外ではなく、一昨年度と比較しても昨年度の業績は悪化しています。コロナ禍が一段落しましたが、入院患者数が減少したままで病床利用率が低いことによる収益が伸び悩んでいます。職員の給与を確保するため人件費の増加、円安物価高に連動した診療材料費、また委託費や修繕、メンテナンス費用などの経費増加が支出増の大きな原因と思われます。にもかかわらず、診療報酬は不当に抑えられており経営は厳しさを増しています。

当院では、業務の見直しや診療体制の効率化により経営改善を進めるとともに、患者さんにとって負担の少ない持続可能な医療提供を目指しています。

現在の医療は、病院単体で完結するものではなく、地域に根ざした継続性を持たせる必要があり、地域内での医療介護連携が重要視されております。当院はその中心となり、行政や周辺のクリニック、訪問看護、介護施設等と連携し公立病院としての責務を果たしたいと考えます。高齢化が進む中、生活習慣病予防や健康寿命の延伸に向けた取り組みを強化するとともに、退院後の生活を見据えた在宅医療や介護連携にも力を入れてまいります。

本年度の当院の診療体制に関しご説明します。診療制限されていまして消化器内科は常勤3人体制に加え非常勤の応援もあり、内視鏡検査、治療を主体として、救急、健診に十分な体制が整いました。総合診療科は専攻医プログラムに新たに3名登録され、これまで以上に活躍が期待されます。昨年度常勤となりました眼科に関しては、各所から良い評価をうけており、手術を中心として当地域に貢献しています。また当院は国から認定されている県内5カ所の地域がん診療病院であり、胃がん、大腸がん、膵胆道がん、肝がん、肺がん、泌尿器がん、婦人科がんなどに対し、診断、そして手術、抗がん剤、放射線治療装置トモセラピーをガイドライン等に従い治療しています。最新のマンモグラフィ撮影装置も更新し、増加傾向の乳癌の早期発見に役立ちます。救急医療に関しては、心筋梗塞などの循環器疾患、脳卒中などの脳疾患など専門性の高い分野にも対応しています。また、県内では対応している施設が少ない精神科救急にも積極的に受け入れています。さらにこの春国家試験に合格した初期研修医を6名採用いたしました。よりよい医師となるよう地域の皆様のご支援が必要と考えます。

終わりとなりますが、新年度も、患者さんご家族が安心して当院をご利用いただけるよう、職員一同、より一層努力してまいります。

今後とも、十和田市立中央病院をどうぞよろしくご支援申し上げます。